

野外授業・巡検の実践例とそれらの教育的意義

著者	永迫 俊郎
雑誌名	鹿児島大学教育学部研究紀要. 教育科学編
巻	69
ページ	1-12
発行年	2018-03-29
URL	http://hdl.handle.net/10232/00030104

野外授業・巡検の実践例とそれらの教育的意義

永 迫 俊 郎*

(2017年10月24日 受理)

Practice Illustrations of Outdoor Lesson and Field Excursion, and Evaluating their Educational Significance

NAGASAKO Toshiro

要約

地表に人為的・自然的に描かれる様々な模様を記載する学問である地理学では、野外観察や現地調査が最も重要視される。ほとんどの研究が具体的な対象地域を設定して行われる地理学において、現地をみる観察眼よりも大切な資質はないと言える。身近な地域を対象に始められる小学校3・4年生の社会科や、その前段階に当たる生活科での郷土学習の観点からも、筆者が催行してきた野外授業・巡検の教育的意義を検討することは重要であると考えられる。

本論文では、筆者が引率者・教える側として取り組んできた野外授業・巡検を総括し、それらの意義を議論し、催行に際しての留意点を述べる。明文化したり意識したりすることなく行ってきた実践について振り返って評価することが、アクティブ・ラーニングの推進や学生が将来担う社会科学習や遠足の企画・遂行に貢献できれば幸いである。

キーワード：野外観察，現地調査，実地見学，活動体験学習，郷土学習

* 鹿児島大学教育学系 准教授

1. はじめに

今も昔も人間生活の場であり続けている地表（地球表面）には、人為的ないし自然的に様々な模様が描かれる。こうした地表の充填物を記載する学問である地理学では、野外観察や現地調査が最も重要視される。むろん、実地に赴いたからといって地理的事象の理解に直結するわけではなく、行ったことがない場所については何ら語れないようでは学問の蓄積を全く活かしていないことになるが、ほとんどの研究が具体的な対象地域を設定して行われる地理学において、現地をみる観察眼よりも重要な資質はないと断言できよう。明治期に excursion の訳として使われ始めた「巡検」は、歴史的には為政者が地域や住民を調査する「巡検使」に由来する（久保、2016）。巡検と excursion のどちらも軍事用語であり筆者個人的には使いたくないと思うものの、野外観察や現地見学、調査旅行の意味で地理学や地学の分野では広く定着しているため、地理学を専門とする学生を引率する際には巡検という表現を用いて、その他の学生を対象とした野外授業と使い分けている。野外授業の具体的な内容は、野外観察、現地見学、遠足、登山、活動体験、ボランティアなど多岐に渡る。

ところで、「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称」である「アクティブ・ラーニング」が文部科学省によって推奨されており、教育学部第二講義棟にはアクティブ・ラーニング・プラザとの愛称が付けられるほどである。鹿児島大学のシラバスにもアクティブ・ラーニングの項目が2016年度から追加され、「グループワーク、ディベート、フィールドワーク、プレゼンテーション、学習の振り返り、その他」から選択記入する形式になっている。地理学の性格上、もともと野外授業・巡検を重用してきただけだが、筆者の担当科目の多くでフィールドワークがチェックされている。

アクティブ・ラーニングの推進および2022年度から予定されている高校での「地理総合」の必修化という状況に加えて、身近な地域を対象に始められる小学校3・4年生の社会科や、その前段階に当たる生活科での郷土学習の観点からも、筆者がこれまで行ってきた野外授業・巡検を振り返って、それらの意義を検討することは重要であると考えられる。中高での地理教育を念頭に、1単位時間程度で学校周辺の少数の事象に絞って行うワンポイント巡検の実施方法について解説している松岡ほか編（2012）は、実施にあたっての注意事項も言及しており参考になるが、より一般的な一日巡検が取り上げられていない。地元鹿児島県については、それぞれ地理部会と歴史部会の手による「鹿児島地図紀行」（2004）や「鹿児島県の歴史散歩」（2005）が地域ごとにまとめており、具体的な記述として参考になるものの、やや羅列的な印象が否めない。NHKの大人気番組「プラタモリ」（書籍化の一例として2東京駅 富士山 真田丸スペシャルを挙げた）や実際に歩いて新聞記事にした清水（2008）のようなストーリー性や軽やかさも、野外授業・巡検に不可欠だと思われる。

本論文では、筆者がこれまでに引率者・教える側として取り組んできた野外授業・巡検を総括したうえで、それらの意義を議論し、催行に際しての留意点を述べることにする。職人技

の如く明文化したり意識したりすることなく行ってきた野外授業・巡検の実践について、自ら振り返って評価することが、アクティブ・ラーニングの推進や学生が将来担う郷土学習に貢献できれば幸いである。

II. 野外授業の実践例

1. 一日ないし半日

筆者は2004年度から非常勤講師として大学で教鞭を執り始めた。東京と鹿児島を拠点に、表1に挙げた様々な野外授業・一日巡検を行ってきた。宿泊を伴う巡検はここには掲載せず、III章I節で一部を紹介する。

日本大学のフィールド調査法1と2(⑩, ⑪; 表1)は、文理学部地球システム科学科1年生の必修科目で、助教授と非常勤講師の二人の担当教員に助手とTAの補助が加わった計4人態勢で引率・指導されていた。筆者は敷かれたレールの上を走っていたのに過ぎないため、これらの野外授業は評価の対象から外すことにする。

湘南国際女子短期大学(神奈川県藤沢市)は、相模川沿いに河岸段丘が発達する相模野台地を刻む引地川の谷底に位置し、最寄りの小田急電鉄湘南台駅との往復で段丘と段丘崖を満喫できる。小田急江ノ島線の終点・片瀬江ノ島まで20分ほどで行けるため、授業時間プラスアルファの3時間コースの野外観察が設定できた。また、筆者が大学院博士課程で在籍した東京都立大学の環境地理学研究室で一緒だった深見和年さんが、鎌倉市の「山崎の谷戸を守る会」で活動されていた縁で、鎌倉中央公園に何度もお邪魔して実地体験学習(②, ⑤, ⑦; 表1)をさせていただけた。東京から適度な距離にある鎌倉には文化人が好んで居住しているようで、日本でのナショナルトラストは鎌倉で始まり、環境保全活動も盛んな土地柄である。折しも里山が脚光を浴びており、持続的利用(サステナビリティ)について活動体験を通して学べる絶好の場所であった。近くに通っていたことと深見さんの存在から、鎌倉や江の島がテリトリーになっていた。

お茶の水女子大学(東京都文京区)では、地形を専門とする専任教員が転出されて不在だったため、一日巡検の催行を勧められた。一日巡検に2回参加で1単位、4回参加で2単位という具合で野外実習系の単位認定がされるものの、催行の頻度が著しく低かったためである。山の手と下町の地形形成を説明するには氷期・間氷期サイクルを理解しなくてはならず、また段丘(海成・河成)研究の模式地が電車でアクセスしやすい範囲にあるので、地形景観の観察を中心に据えた巡検(⑧, ⑨; 表1)を幾つか企画した。

東京での11種類の野外授業・巡検に対して、鹿児島では18種類をより多頻度で催行してきた。シラス地域学という共通教育科目の目玉に位置づけた⑬では、鹿児島大学のスクールバスを利用しマリンポートかごしま(車窓のみ)、脇田川低地の伝統的農村景観、ふれあいスポーツランドを3時間ほどで周遊する。一年に一度の集中講義で恒例のコースをまわると、街の変貌ぶりがよく分かる。鹿児島市の新たな商業核とよべる宇宿界隈の宅地開発は年々脇田川を遡

表1 引率者・教える側として催行してきた野外授業・一日巡検の一覧

通番	野外授業・巡検の主題	内容	所要時間	移動手段	授業科目名	科目の属性	開催時期
①	相模野台地	観察・活動体験	90分	徒歩	[湘南国際女子短期大学]	一般科目	2004年5月
②	鎌倉中央公園での美地体験学習	観察・活動体験	1日	鉄道・徒歩	生活環境論	一般科目	2004年11月
③	鎌倉中央公園での美地体験学習	観察・活動体験	1日	鉄道・徒歩	地球環境論	一般科目	2005年6月
④	相模野台地と江の島	観察	3時間	鉄道・徒歩	地球科学入門	一般科目	2005年12月
⑤	日本文学生物資源科学部土壌学研究室訪問	観察・見学	3時間	徒歩	地球環境論	一般科目	2006年5月
⑥	江の島と鎌倉中央公園	観察・活動体験	1日	鉄道・徒歩	[お茶の水女子大学]	文教育学部・専門科目	2005年5月
⑦	大船場重と鎌倉中央公園	見学・食事・観察	1日	徒歩	自然地理学基礎演習	一般教養科目	2005年11月
⑧	海洋研究開発機構と三浦半島南端	見学・観察	1日	鉄道・徒歩	第四紀地質学(地学(地質鉱物))	一般教養科目	2005年11月
⑨	生田緑地～サントリー～武蔵野工場～野川公園	観察・見学	1日	鉄道・徒歩	環境地理学基礎演習	文教育学部・専門科目	2006年5月
⑩	生田緑地でのクリンメーター～ハンストレ벨を用いた地形図作成	実習・観察	3時間×5回	徒歩	[日本大学]	文理学部・専門科目	2005.06年4-5月
⑪	山梨県上野原での河原段丘の現地(地形・露頭)調査	実習・観察	1日×2班	鉄道・徒歩	フィールド調査法1 フィールド調査法2	文理学部・専門科目	2005.06年11月
⑫	ロープウェイ利用の鈴鹿山脈御在所岳の散策	観察・遠足	1日	鉄道・徒歩	[奈良国際大学]	国際学部・専門科目	2006年9月
⑬	大学バスを利用したシラス地域での野外観察	観察・スケッチ	半日×2班	バス	[鹿児島大学]	共通教育科目	2005.06.07.08.09.10.15年9月, 16年8月
⑭	鹿児島本港区～桜島大正浴原	観察・見学	1日	バス	シラス地域学[集中]	法文学部・専門科目	2008年8月, 09年9月
⑮	吉野公園～寺山～白銀坂～重富駅	観察・遠足	1日	徒歩・船	テーマ地理学I	法文学部・専門科目	2010年9月
⑯	鹿児島本港区, よりみちクルーズ, 桜島大正浴原	観察・遠足	1日	徒歩・船・バス	テーマ地理学II	法文学部・専門科目	2011年5月
⑰	郡元基地, 鹿児島デジタルテレビジョン放送所	観察	1日	徒歩	テーマ地理学III	法文学部・専門科目	2011.12.13年11月, 14年9月
⑱	重富駅～白鷺橋～寺山～上野原バス停	観察	90分	徒歩	シラス地域学(通常)[集中]	共通教育科目	2012.13.14.15.16年4月
⑲	鹿児島地方気象台の見学	観察・遠足	1日	鉄道・徒歩・バス	自然地理学演習I	文教育学部・専門科目	2012年5月
⑳	鹿児島地方気象台の見学	見学	90分	送迎車	自然地理学演習II	文教育学部・専門科目	2013.14年5月
㉑	南風見町駅～鹿児島島地方気象台～マリンポートかごしま	観察・遠足	1日	徒歩	自然地理学演習III	文教育学部・専門科目	2013年6月, 14.15.16年11月
㉒	開閉店トレッキング	観察・登山	1日	鉄道・送迎車	自然地理学特講	文教育学部・専門科目	2013年10.11月
㉓	サファリアー・プリンス/ス/ダイヤモンド/プリンス乗船見学	観察・登山	3時間	送迎車	自然地理学特講	文教育学部・専門科目	2013年12月
㉔	始良カルデラ一周(軒屋平野～桜島の周遊)	観察・測量実習	1日	送迎車	[該当科目なし]	文教育学部・専門科目	2014年5月, 15年7月, 17年3月
㉕	有線電柱のふどうの入手入れ・収穫	観察・活動体験	1日	鉄道・送迎車	自然地理学演習I	文教育学部・専門科目	2014年5月, 15年5.8月, 16年5.7月
㉖	自然観察法の木箱の田植え・車取り	観察・活動体験	1日	鉄道・送迎車	自然地理学演習II	文教育学部・専門科目	2014年5.8月, 15年5.8月, 16年5.7月
㉗	上野原バス停～寺山～白銀坂～重富駅	観察・遠足	1日	バス・徒歩・鉄道	自然地理学演習III	文教育学部・専門科目	2014年6月, 2016年6月
㉘	薩摩藩の里・美山郷(五元)	観察	1日	徒歩	シラス地域学[集中]	共通教育科目	2014年9月
㉙	2つの鹿児島県民と打屋山・稲屋岳七ツターセンター	観察	90分+α	送迎車	自然地理学II	文教育学部・専門科目	2014年11月
㉚	郡元基地～之宮神社～旧谷山街道	観察	1日	徒歩	自然地理学野外演習	文教育学部・専門科目	2014年12月
㉛	薩摩藩の里・美山の散策	観察	1日	徒歩	自然地理学野外演習	文教育学部・専門科目	2014年12月
㉜	薩摩藩の里・美山郷(燃島)～牛相屋跡没馬居の周遊	観察・測量実習	90分	徒歩	自然地理学野外演習	文教育学部・専門科目	2015年7月, 16年6月
㉝	五木・ハンジ～五家荘～加久藤カルデラの周遊	観察・アクティビティ	1日	鉄道・送迎車	テーマ地理学I	文教育学部・専門科目	2015年10月
㉞	薩摩藩の里・美山郷(五元)祭りのポラニア体験	観察・ポラニア	1日	鉄道・送迎車	自然地理学演習I	文教育学部・専門科目	2016年5月
㉟	平川自然療法農場での収穫祭	観察・活動体験	1日	送迎車	テーマ地理学II	文教育学部・専門科目	2016年11月

り、伝統的な農村が消失しないか不安を抱きながら、下見を行っている。幸い広木農協とJR広木駅の間には、シラス地域の昔ながらの土地利用と集落立地が今なお残されている。同様にスクールバスを活用した野外観察として、⑭始良カルデラ一周コースを企画した。始良で白金酒造の工場見学をした後、国分の上野原台地からカルデラとシラス台地を展望し、垂水と桜島を通過して鹿児島市内に帰る約100kmの行程である。スクールバスは土日に使用できないため、⑬と⑭のどちらも集中講義のうち1日を割り当てることができないのが難点といえる。

通常開講の授業や、また受講者数が多くて定員制限のあるバスを使えないケースに備えて、土日に公共交通機関を利用して行う野外観察コースを考案した。意外にも目と鼻の先にある桜島に行ったことがない学生が多くて好評なのが、鹿児島本港区～よりみちクルーズ～桜島大正溶岩原～湯之平展望台をまわる⑮と⑮'で催行回数9はトップを誇る。目下売り出し中は、南鹿児島駅～鹿児島地方気象台～旧鹿児島飛行場～マリポートかごしまを遠足する⑯で、専ら低平な埋立地を歩きながら新たな発見があるという構成である。ラジオゾンデの飛揚に間に合うように8時20分集合で、イオン鹿児島ショッピングセンターでの解散まで8kmほど歩くという、やや健脚向きのコースである。引率する筆者の体調もあるので3度を数えるにとどまっているが、寺山展望台から歴史国道の白銀坂を通過して重富に至る(⑰, ⑰'; 表1)は山道を含んで15kmほど歩く健脚向きで、一緒にやり遂げると連帯感が生まれる。

鎌倉中央公園で体験させていただいていた農作業は、東市来町湯田(⑳, ㉑'; 表1)で白石克隆さんと下茂孝喜さんのご協力のもとぶどう園と水田、畑で行っている。加治木高校からの筆者の恩師である白石先生は、美山地区公民館の嘱託職員をされており、薩摩焼の里・美山を訪れる折(㉒, ㉒'; 表1)にも大変お世話になっている。

2.1 単位時間ないし2単位時間

大学の1単位時間だと90分という限られた時間になるものの、焦点を絞ることで高い教育効果が得られるだろうとの思いから、土日の1日に比べると細々ながら、2-3の野外観察を行っている。⑰の鹿児島デジタルテレビジョン放送所は紫原に立つ電波塔で、標高70mからの市内の眺望は格別である。前回の地形図作業で描いた断面図の確認を現地で行い、露頭では正にシラス(始良入戸火砕流堆積物)に触れる。自然地理学演習Ⅰの第2回目の恒例にしている。また、1ヶ月以上前の事前予約とアクセスの確保がネックになり2度で足踏みしたままだが、⑱鹿児島地方気象台の見学も有効なオプションである。旧谷山街道に関わる地形図作業をしたり、映画「六月燈の三姉妹」(2014年)を観た後、確認のために旧谷山街道に出かけたが、㉓は90分で収まった一方、移動距離が長い㉔は武之橋で解散となってしまった。

前の時間や次の時間に余裕があれば、2単位時間に当たる3時間で野外授業を組むことも可能である。湘南国際女子短期大学では③と④の2回催行した。放課後と組み合わせた5限や6限では汎用性が高いといえる。

3. 変わり種

これまでで最も早い集合時刻は、築地の競りおよび地下鉄の始発電車に合わせた朝6時(⑥:表1)で、13時解散でも丸一日に匹敵する充実感があった。誰でも見学可能というわけではないが、長崎の三菱重工造船所で建造されたサファイア・プリンセスとダイヤモンド・プリンセス(極一部のアンテナが異なるだけで、ほぼ見分けがつかない姉妹船)がマリポートかごしまに寄港する際、乗船見学をさせていただいた。セキュリティ対策で、事前にパスポート番号や運転免許証番号の登録が不可欠で、当日これらのIDと引き換えでないと乗船できないという制約があるとはいえ、実際に船内を見てまわると、クルーズへの期待と夢が膨らむ。筆者の姉の職業柄実現できたもののだが、時折一般対象にも見学ツアーが開催されることがあるので、是非という方は活用されたい。

五木バンジーは九州唯一のブリッジバンジーで高さ66mである。川辺川ダムが白紙撤回され、ダム湖ができなかったので、自らの恐怖心と闘う場が設営された。教育実習に臨む直前の3年生を引率して飛ばしている。2017年8月は有志を募って日本一の石段(3,333段;釈迦院御坂遊歩道)とセットで出かけたため、⑨は1回きりだが、恒例行事に育てられればと考えている。

III. 巡検の実践例

1. 地理学学生対象の大巡検

地理学を専門とする学生を対象とした野外観察・現地見学・調査旅行を巡検と呼ぶことにする。大巡検というと4.5泊以上で、普段の生活圏を離れた地域を巡回するような響きがある。最初に携わった大巡検は、1998年9月6～12日にTAとして参加した東京大学地理学教室学部大巡検(理学部地学科;自然地理学野外実習I)で、宮崎と鹿児島をまわり、フェリーで南下し、沖縄本島を周遊するコースだった。修士課程2年生に案内をさせるのが定番で、鹿児島新港からフェリーに乗せるまでが担当だった。はっきりと指導された記憶はなく、巡検の立案と運営の何たるかを見て盗めという配慮があるのかもしれない。明文化されていないものの、知らず知らずのうちに習得していることは少なくないと思う。いきおい自分が身に付けた流儀で、それらを疑ったり吟味したりせず、遂行してしまうのかもしれない。かくして、自然地理学野外演習の巡検プランを専ら自分で作ってしまう筆者である。事例として、以下に3つの旅程ならびに用務の概要(出張報告書)を紹介する。

2014年3月 種子島巡検(自然地理学野外演習)の旅程

3/13(木) トッピー・ロケット 111便 鹿児島 7:30 → 西之表 9:05 (種子屋久高速船)

西之表港よりレンタカー(南星レンタカー)で中種子へ 午前:中種子町役場訪問, 中種子町歴史民俗資料館見学, 中種子町内巡検 午後:南種子町役場訪問, 南種子町内巡検, 宇宙科学技術館(種子島宇宙センター)見学・施設案内ツアー(15:30～) <宿泊先>

ホテルサンダルウッド（南種子町）

3/14（金）ホテルサンダルウッドよりレンタカーで西之表へ

午前：西之表市役所訪問，種子島開発総合センター（鉄砲館）見学，西之表市内巡検 午後：
西之表市内巡検，高崎酒造(株)安納工場 焼酎蔵元見学（14:30～） <宿泊先> 種子島あ
らきホテル（西之表市）

3/15（土）種子島あらきホテルよりレンタカーで中種子へ

午前：中種子町内巡検，増田宇宙通信所見学 午後：南種子町内巡検，赤米館見学，南種
子町農業者トレーニングセンター <宿泊先> グリーンホテルさかえ（中種子町）

3/16（日）たねがしまロケットマラソン フルマラソン/ハーフマラソンに参加

フルマラソン：緑の回廊公園 9時スタート ハーフマラソン：JA 種子屋久くまげ地区本部
10時スタート メイン会場の種子島宇宙センター（ゴール）をレンタカーで15時頃出発
西之表市街地にて16時15分頃に解散予定

{永迫のみ} 新種子島空港へ（レンタカー返却） JAC 3774 種子島 17:45 → 鹿児島 18:20

2015年8-9月 北海道巡検の用務の概要（出張報告書）

自然地理学特論Iならびに自然地理学演習Iの野外授業として、北海道の南西部および中部において野外巡検を行った。8月28日に航空機（大阪伊丹経由）にて新千歳空港に入り、レンタカーにてカルデラ湖である支笏湖・洞爺湖を巡検しながら、虻田郡ニセコ町内に宿泊した。29日は午前中にニセコビレッジ内にてジップラインツアーに参加し、午後はニッカウキスキー余市蒸溜所の見学、小樽運河・札幌市大倉山ジャンプ競技場の巡検を行い、レンタカー返却後札幌市内に宿泊した。30日は2015北海道マラソンに参加の後、徒歩や公共交通機関にて大通公園周辺やサッポロビール博物館等を巡検した。31日には再びレンタカーを借りて、トマム・狩勝峠を巡検しながら富良野市に入り、滝里ダム・ファーム富田・ふらのワイン工場を見学後、富良野市内に宿泊した。9月1日はぜるぶの丘を經由し、旭岳ロープウェイにて標高1100mから1600mに上り、北海道最高峰の旭岳（2290m）への登頂を果たし、旭川市内に宿泊した。2日は日本で最も入場者数が多く先進的な展示で人気の高い旭山動物園を見学した後、旭川空港に向かいレンタカーを返却した。2日のうちに東京羽田経由で鹿児島に帰る予定が、添付した理由書に記したように旭川—東京線のJAL556便の遅延により、乗り継ぎができなくなり、東京品川に一泊（日本航空の負担）の後3日の朝空路にて鹿児島に帰着した。

移動距離が長く、またマラソンやトレッキングなど体力も必要とする野外巡検だったが、野外観察の重要性と興味深さに十分に触れてもらうことができたことと評価される。

2016年1月 沖縄先島諸島巡検の用務の概要（出張報告書）

自然地理学野外演習ならびに自然地理学特論演習Iの野外授業として、沖縄県の先島諸島において野外巡検を行った。1月21日に航空機にて那覇空港に到着し、世界文化遺産の首里城

表2 INQUA2015のポストコンGRESS・エクスカージョン PO-13の行程表(永迫作成の原版から一部を削除)

Title	Day	Day Time	訪問箇所(滞在時間)	入場料/謝金	訪問箇所住所	大型バス駐車場	食事		
Quaternary volcanism, tephra and associated landscapes in Kyushu Island (4 days)	1日目 8/3 (月)	9:00	JR熊本駅出発 (10分:8:50到着)	¥0	熊本県熊本市西區春日3-15-1	なし(停留所で乗車)			
		10:00	熊本(阿蘇(まもと)空港出発 (20分:9:40到着)	¥400	熊本県上益城郡益城町小谷1802-2	有(1時間毎400円)			
			[九州自動車道] 益城熊本空港IC→菊水IC	¥2,340	距離:29.8km. 所要時間:18分				
		12:05	長洲港(有明フェリー)出港 (フェリー所要時間45分:長洲港11:30到着<ランチボックス配付>)	7,560円(12m未満), 396円/人(15名以上の団体割引;総額の10円未満は切上)					
		12:55	多比良港出発						
		14:05	仁田峠第二展望台出発 (25分:13:40到着)	仁田峠管理自動車 環境協力金 100円(任意)	長崎県雲仙市小浜町雲仙仁田峠	有(予約不要;無料)	朝:なし 昼:弁当 夕:ホテル		
		14:20	仁田峠第一展望台(トイレ休憩) 出発 (10分:14:10到着)						
		15:35	旧大野木小学校校舎被災遺構(大野木場移防みらい館) 出発 (20分:15:15到着)	¥0	長崎県南島原市深江町成2100-1	有(予約不要;無料)			
		16:50	雲仙岳災害記念館(がまだずーん) 出発 (60分:15:50到着)	入場料 800円/人(15名以上の団体割引)	長崎県島原市平成年1-1	有(予約不要;無料)			
		17:30	島原外港(オーシャンアロー(熊本フェリー)出港 (フェリー所要時間30分:島原外港17:00到着)	10,300円(12m未満), 800円/人(15名以上の団体割引)					
		18:05	熊本港出発						
		19:15	HOTEL AZ 熊本大津店到着 (夕食 19:45~)	6,130円(シングル、2食付き)	熊本県菊池郡大津町引水810-1	有(1泊2,160円)			
		2日目 8/4 (火)	8:00	HOTEL AZ 熊本大津店出発	6:30~朝食可				
			9:25	阿蘇カルデラ大観峰出発 (30分:8:55到着)	¥0	熊本県阿蘇郡阿蘇町山田2990-8	有(予約不要;無料)		
			11:00	阿蘇草千里ヶ浜出発 (55分:10:05到着)	¥0	熊本県阿蘇市草千里ヶ浜	有(予約不要;有料) 大型1,630円		
			12:30	高森田舎の里<田舎ランチ>出発 (60分:11:30到着)	1,980円/人(山星定食)	熊本県阿蘇郡高森町高森2685-2	有(予約不要;無料)	朝:ホテル 昼:あり 夕:ホテル	
			15:15	高千穂城出発 (60分:14:15到着)	¥0	宮崎県西臼杵郡高千穂町三田井御造井	有(予約不要;無料;大橋駐車場?)		
				[福岡南道路/東九州自動車道] 福岡南IC→高嶺IC	4,510円	距離:60.5km. 所要時間:45分			
			18:20	西都原考古博物館(西都原古墳群) 出発 (90分:16:50到着)	¥0	宮崎県西都原市三宅5670	有(予約不要;無料)?		
18:40	HOTEL AZ 宮崎佐土原店到着 (夕食 19:15~)		6,130円(シングル、2食付き)	宮崎県佐土原郡小松7-8	有(1泊2,160円)				
3日目 8/5 (水)	3日目 8/5 (水)	8:00	HOTEL AZ 宮崎佐土原店出発	6:45~朝食可					
			[東九州自動車道/宮崎自動車道] 西都IC→小林IC	6,390円	距離:85.3km. 所要時間:約1時間7分				
		10:00	えびの市文化の社近傍のシラス採取遺跡出発 (35分:9:25到着)	¥0	宮崎県えびの市大明町	有(予約不要;無料)の文化の社駐車場から徒歩			
		10:30	道の駅えびの市 出発 (20分:10:10到着)	¥0		有(予約不要;無料)			
			[九州自動車道] えびのIC→清辺鹿児島空港IC	2,760円	距離:35.5km. 所要時間:27分				
		11:00	鹿児島空港出発 (1分:10:59到着)			有(予約不要;無料)			
		11:45	園分ハイツ展望台出発 (20分:11:25到着)	¥0	鹿児島県鹿児島市園分上野原テクノパーク2番1号	有(予約不要;無料)			
		12:50	上野原縄文の森出発 (60分:11:50到着<ランチボックス配付>)	展示館利用料金 240円/人(20名以上の団体割引)	鹿児島県鹿児島市園分上野原縄文の森1番1号	有(予約不要;無料)			
			[東九州自動車道/大隅横貫道] 園分IC→細山田IC	1,810円	距離:62.1km. 所要時間:43分				
		14:40	東九州自動車道建設に係る埋蔵文化財発掘調査の現場(川久保遺跡) 出発 (40分:14:00到着)	¥0	鹿児島県鹿屋市細山田	なし(路上乗降)	朝:ホテル 昼:弁当 夕:あり		
		15:15	鹿児島県アジア・太平洋農村研修センター(トイレ休憩) 出発 (15分:15:00到着)		鹿児島県鹿屋市上高隈町3811-1				
		16:05	垂水高峠出発 (30分:15:35到着)	¥0	鹿児島県垂水市高峠原	なし(路上乗降)			
		17:05	道の駅たるみず満ち足り館出発 (20分:16:45到着)	¥0	鹿児島県垂水市牛根屋1038-1	有(予約不要;無料)			
		17:30	桜島黒神塚没島出発 (15分:17:15到着)	¥0	鹿児島県黒神町	有(予約不要;無料)			
		18:25	桜島湯之平展望所出発 (25分:18:00到着)	¥0	鹿児島県黒島小池町1025	有(予約不要;無料)			
		18:55	桜島港(桜島フェリー)出港 (フェリー所要時間15分:桜島港18:45到着)	6,110円(12m未満), 144円/人(15名以上の団体割引;総額の10円未満は切上)					
		19:20	リッチモンドホテル鹿児島倉生町到着	10,000円?(シングル、朝食付き)	鹿児島県鹿児島市倉生町3-3	港側(ドムンポート)→2,000円、予約不要?			
		20:00	ポルトカーサで夕食 (120分:美人ビアガーデン)	ビアガーデンコース 約4,000円/人	鹿児島県本港新町5-4 ドムンポート2階	徒歩移動のため不要			
		4日目 8/6 (木)	4日目 8/6 (木)	8:00	リッチモンドホテル鹿児島倉生町出発	6:30~朝食可			朝日通りの公園前乗車
9:10	善入リュウキュウコウガイ産地出発 (20分:8:50到着)			¥0	鹿児島県喜入生見町	有(予約不要;無料)			
9:50	道の駅いぶすき出発 (30分:9:20到着)			¥0	鹿児島県指宿市小牧52番地4	有(予約不要;無料)			
11:00	山川地熱発電所出発 (40分:10:20到着)			¥0	鹿児島県指宿市山川小川2303	有(予約不要;無料)			
11:50	山川ヘルシーランド出発 (40分:11:10到着)			¥0	鹿児島県指宿市山川福元3292	有(予約不要;無料)			
13:10	唐船岬せらめい流しランチ出発 (60分:12:10到着)			1,340円/人(B定食)	鹿児島県指宿市開田十町5967	有(予約不要;無料)	朝:ホテル 昼:あり 夕:なし		
14:20	指宿自然公園出発 (40分:13:40到着)			¥0	鹿児島県指宿市指宿町別府	有(予約不要;無料)			
15:10	池田湖畔(池田湖パラダイス) 出発 (15分:14:55到着)			¥0	鹿児島県指宿市池田湖畔	有(予約不要;無料)			
	[指宿スカイライン/九州自動車道] 指宿IC→清辺鹿児島空港IC			6,060円(2,270+1,140+2,650円)	距離:73.4km. 所要時間:約70分				
17:00	鹿児島空港出発 (10分:16:50到着)			¥0	鹿児島県鹿児島市清辺町麓822	有(予約不要;無料)			
	[九州自動車道] 清辺鹿児島空港IC→鹿児島IC			¥2,650	距離:36.3km. 所要時間:28分				
17:50	JR鹿児島中央駅到着	¥0	鹿児島県中央町1-1	なし(停留所で降車)					

やラムサール条約の登録湿地である漫湖等を巡検した。同日航空機にて石垣空港に入り、石垣市内に宿泊した。22日はSEA-TRIP ダイビングサービスに依頼し、石西礁湖でスキューバダイビングを行った。1・2本目は石垣島南東部沖の桜口、3本目は竹富島南方のピタローの根で、魚類や造礁サンゴの生物観察およびファンダイビングの体験ができた。時化による欠航で当初計画していた竹富島巡検を取り止めざるを得なかった23日は、強風を伴う雨天だったため、石垣市市街地とその界隈を徒歩巡検するにとどめた。24日は唐人墓、ラムサール条約登録湿地である名蔵アンパル、石垣島製糖工場、宮良川のヒルギ林など石垣島の南部を中心に巡検した。石垣島での最後の宿泊先のみ島内屈指のリゾートホテルに変更し、ホテル内外の設備やホスピタリティを観察しながら、リゾートの一端を味わった。25日は底原ダム、同宿していたなでしこジャパンの練習地であるサッカーパークあかんま、川平湾といった石垣島中部を見学後、北部の平久保灯台まで足をのびした。同日航空機にて宮古空港に入り、雪塩工房と池間島を見学してから、伊良部大橋経由で伊良部島に渡り、隣接する下地島に宿泊した。26日は下地島空港、通り池、白鳥崎、サバウツガーを巡検後、伊良部大橋経由で宮古島に戻り、前浜ビーチと来間島を見学した。同日航空機（那覇空港乗継）にて鹿児島に帰着した。

数十年に一度といわれる寒波の襲来で沖縄にしては非常に寒いというハプニングに遭遇したり、スキューバダイビングなど体力も必要とする野外巡検だったが、野外観察の重要性と興味深さに十分に触れてもらうことができたことと評価される。

2. 学会等でのエクスカージョン

国内の学会や国際学会の開催に際してエクスカージョンが設定されることが多く、その対象者は同僚たちでプロが相手となる。2010年5月に霧島市で開催された International Field Conference and Workshop on Tephrochronology, Volcanism, and Human Activity 'Active Tephra in Kyushu, 2010' という国際会議において、初めてワンデイ・エクスカージョンのコース設定に従事させてもらった。この会議で実行副委員長かつ巡検責任者であった森脇広先生が、2015年7-8月に名古屋で開催された INQUA (International Union for Quaternary Research; 国際第四紀学連合) の国際会議にあたりポストコンgress・エクスカージョン (設定された15コースのうち実際に催行されたのは6) の一コースを九州で担当されることになり、ツアーリーダーの一人としてコースの設定や下見・解説に従事した。会議の運営を含めJTBの子会社が一元管理する体制で、煩雑な資料のやり取りも少なくなったため、行程管理は筆者が責任をもって行った。表2はJTB子会社および実行委員会本部に提出した行程表で、8月3～6日に催行されたPO-13の息づかいが分かる。筆者は2017年度前期にアメリカ合衆国で海外研修する好機を得たが、このエクスカージョンにご夫婦で参加されていた James Aber 先生にホストをお願いすることになるとはその時は思いもしなかった。

IV. 野外・実地・活動の意義

図1は⑤(表1)の一日巡検のレポートで、地理学を専攻するお茶の水女子大学3年生が書いたものである。当日のキーワードを各自任意に考え、関連する事柄を自由に挙げて興味関心のネットワークを広げていくのが万華鏡的世界の肝である。マンダラとも呼ばれるこの表現法は、ブレインストーミングにも有効であり、筆者は好んで授業内外のレポートで課題として取



図1 一日巡検の万華鏡的世界レポートの好例

り組ませている。図1は「歩く」を中心に据えて、鎌倉と江ノ島の上下方向へ観察事項や体験内容を上手くまとめている。諸々の事象を関連付けようと試みることは体系的な理解につながり、所謂「地理的なものの見方」として地理や地理学で強調される「環境世界を認識するフレーム」の習得に役立つ。

人間は考える葦であるという言葉をもじって、人間は足で考えると徒歩で移動しながら学生に説くことがある。レイティ・ハイガーマン（2009）も念頭に置いているが、実際に現地へ赴きその場に身を置く直接体験によって、電車や自動車などのスピーディな車窓からでなく自分の歩幅で歩き人間の身体尺に則した観察をすることで、見えてくる世界があると伝えたいのだ。

都会のサイエンス塾に通う小学生を対象にした種子島・海の学校を事例に野外教育について論じた永迫ほか（2016）において、子どもたちの成長を次のように総括した。すなわち、自然の造形美や自然のもつ豊かさに直接接触した子どもたちは感動し、その感動から子どもたちは自然に対する興味・関心が沸き、自然に対して何らかのアクションをしようとする主体性をもつ。その主体性が創作・創造の機会を豊かにすることにつながって、子どもたちを成長に導くのである。

巡検、野外観察、実地見学、遠足、登山、活動体験、ボランティアと具体的な内容は替わっても、小学生と大学生では年齢層と発達段階が異なるにしても、野外・実地・活動の意義が「直接経験」にあることは紛れもない事実である。座学の講義や演習では到底得られない教育的効果が野外授業や巡検にある。幸運にも筆者が携わっている自然地理学では、壮大な自然景観を目前にして誰もが抱くような「感性的感動」をも味わうことができる。個人のもつ学習度合いに依存する「価値的感動」を高めるべく適切な解説を加え、感性的 & 価値的感動の相乗効果で直接経験をさらに有意義にしたい。

V. 催行に際して

地理学の最大の関心事である地域は、地表上のある範囲に人間活動が展開されることで生成する。生活の舞台となる土地は、それぞれの生いたちをもってそこに存在する地形である。人間圏の極限と呼べる都市には自然が欠如していると捉えられがちだが、地表の一部を占め大気と水に満ちた立派な自然がある。自然災害に対する都市の脆弱性が指摘されるに従って、足元の自然が強く意識されるようになってきた。表1にまとめたように様々な主題の野外授業・一日巡検を催行してきたが、自然地理学ないし地理学に関する科目では、対象地が決まると自ずと素材は固まってくる。土地の成り立ちをベースに地表景観を観察し、そこで展開される特徴的な人間生活に注目することになる。多少のアレンジは加えられたとしても、地理屋が選定すると似通ったチョイスになってしまう。職人技とは言い過ぎながら、明文化したり意識したりすることなくそうした選択をするのは、地域の特色に着目するからである。

催行に際しては、受入先にお任せできる時やレンタカー等を利用して遠出する場合以外は、

コースの下見をなるべく行うようにしている。引率者の人数に対して何人程度まで参加させることができるか、コース中のトイレや自動販売機、非常時の交通手段の有無、天候に応じたバリエーションルートなど、実際に足を運ばないと分かりづらいことは多い。台風に伴う土砂崩れで遊歩道が通行止めになったり、火山噴火の入山規制で立ち入り禁止区域が拡大され予定の道路を通れなかったり、鳥インフルエンザで当該地域に入らない方が無難といった事態にこれまで遭遇したことがある。

野外授業・巡検の服装・靴・持参品を前もって指示し、当日集合時に改めて交通安全の注意喚起をしている。おまじないのお陰か、これまで恙なく遂行できていることに感謝したい。また、受入先や引率を補助してくれる方々との日頃のお付き合いも重要である。根回しは受講学生に対しても当てはまり、野外授業へのモチベーションを高められるように事前解説することと、この引率者は信用に値すると思ってもらうことが重要である。

VI. おわりに

野外授業・巡検の教育的意義は直接経験にあり、引率者には行動力とコミュニケーション力が求められる。こちら側の意図を超えた学生の成長がみられたり、自発的な学修の契機となったり、例えそれらはなくとも野外で行動を共にすることで学生と親しくなるだけでも、催行する価値は高い。

戦後GHQのもと新しく導入された社会科でも郷土に関する学習は大きな位置を占めたのは、初期社会科が児童生徒の生活経験を尊重し、問題を解決する力の育成をねらいとしたため、郷土教育の方法的意義を認めたことが要因とされる（「郷土」研究会編，2003）。

本論文では筆者が催行してきた野外授業・巡検の実践について振り返り留意点を述べたが、学校教育で行う社会科学習や遠足の企画・遂行とも密接に関係している。学年に応じてまた趣旨や交通手段によって自ずと形が定まってくる、これらの学校行事については別稿で論じることとする。

引用文献

- 鹿児島県高校地理部会編（2004）「鹿児島地図紀行—地形図で探る郷土の自然と人々の生活— 第二版」. 徳田屋書店, pp. 144
- 鹿児島県高等学校歴史部会編（2005）「鹿児島県の歴史散歩（歴史散歩46）」. 山川出版社, pp. 324
- 「郷土」研究会編（2003）「郷土—表象と実践—」. 嵯峨野書院, pp. 272
- 久保幸夫（2016）創価大学教育学部における地理学巡検の試み. 創価大学教育学論集, 67, 143-160
- 清水哲男（2008）「かごしま国道をゆく10号、220号編」. 南日本新聞社, pp. 123
- 永迫俊郎・箕田友和・高山正教（2016）種子島・海の学校にみる野外教育の実践例. 鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要, 特別号6, 165-173
- 松岡路秀・今井英文・山口幸男・横山満・中牧崇・西木敏夫・寺尾隆雄編（2012）「巡検学習・フィールドワーク学習の理論と実践」. 古今書院, pp. 290
- ジョン J. レイティ・エリック ハイガーマン著 / 野中香方子訳（2009）「脳を鍛えるには運動しかない！ 最新科学でわかった脳細胞の増やし方」. NHK 出版, pp. 345
- NHK「プラタモリ」制作班監修（2016）「プラタモリ2 富士山 東京駅 真田丸スペシャル」. KADOKAWA, pp. 143